

愛知県震度観測・調査報告書—第43報—の概要

1 調査の概要と目的

この調査は、地震動の伝わり方や地域特性を明らかにするため、県内全市町村に設置している計測震度計による震度情報ネットワークの震度観測データ等を活用して、2023年1月～2023年12月に発生した地震と震度に関する情報をまとめるもので、防災対策の基礎資料、県民の地震に対する理解を深めるために活用されることを目的として報告書を作成している。昭和56年より1冊／年で発行しており、本書で43冊目となる。トピックスとして、令和6年能登半島地震についての解説を掲載した。

2 愛知県震度観測・調査報告書—第43報—の概要

(1) トピックス

・令和6年能登半島地震について

令和6年1月1日に発生した能登半島地震について、余震活動、地殻変動などから、どのような地震であったか整理し、得られた教訓について解説している。

(2) 震度観測資料

ア 愛知県における地震

2023年に、県内のいずれかの市町村で震度1以上が観測された地震の発生は22回であり、震度3以上が観測された地震の発生はなかった。

イ 国内の主要な地震

2023年に、国内で被害を伴った地震の発生は4回であった。

ウ 世界の地震

2023年に、世界で人的被害を伴った地震の発生は31回であり、死者が100名を超える海外の地震の発生は5回あった。

3 調査研究成果の活用

調査報告書は、防災会議に報告するとともに、防災関係機関、市町村に配付し、地震防災対策の基礎資料として活用する。

また、県図書館、県民相談・情報センター等に配付し、県民に地震についての理解を深めてもらう。